

# 大阪大学オムニサイト



巻頭言

川端 亮\*

Osaka University Omni Site

Key Words : Omni Site, Center for Collaborative Future Creation,  
Co-creative knowledge

大阪大学オムニサイト (OOS) は、人間科学研究科附属未来共創センターのプロジェクトの一つとして設けられた共創知を生み出す仕組みです。OOSは、共生社会を創造していくための産官社学連携の仕組みで、学内外のセミナーやイベントのあらゆる (オムニ)「場」(サイト)、企業・財団・社団・地方自治体・NPO/NGOなどの活動の「場」(サイト)で協働実践をするものです。

を変えていくために、2016年4月に附属未来共創センターを設立しました。このセンターは、世の中の人びとと共に未来を創っていくことをめざし、大学の中に閉じこもらず、社会に生きる人々と一緒に話をし、何かをつくりあうという、そういう地道な活動を重ねていこうとしています。



OOS (大阪大学オムニサイト) は、人々が変え合い、共生できる「場」を創出します

図1 OOS ホームページ  
(<http://www.hus.osaka-u.ac.jp/oos/>)

人間科学研究科は、1972年の設立当初から文理融合・学際性によって新しい研究分野を樹立することと、社会に貢献する実践性で時代に立ち向かってきました。2013年の「ミッションの再定義」の検討過程の中から、実践性を強みとして組織の在り方



図2 未来共創センターの概念図  
(<http://www.hus.osaka-u.ac.jp/mirai-kyoso>)

格差社会、個人化・無縁社会、リスク社会に生きる私たちは分断され、他者と公的・私的な諸課題をシェアすることが困難な状況にあります。現代社会特有の心の問題や対人関係の問題から地方の過疎、災害の多発、テロの脅威と国際社会における紛争などの諸難題を抱える社会にあって、同時代的にさらには世代を超えて誰もが人間としての尊厳をもち、さまざまな困難に立ち向かえるレジリエントな共生社会の構築が望まれています。OOSは、従来のリジットな共同体ではなく、組織、人、知の壁を越えた多様性・流動性を前提とする新たなコミュニティの構築、利益・効率を超えた利他・支えあいという共通価値を創出 (Creating Shared Values) し、安全・安心社会の実現に貢献します。



\* Akira KAWABATA

1959年8月生まれ  
大阪大学大学院人間科学研究科社会学専攻単位修得退学 (1989年)  
現在、大阪大学大学院 人間科学研究科教授 大阪大学総長特命補佐 人間科学研究科長 人間科学部長 博士 (人間科学) 宗教社会学・社会調査法  
TEL : 06-6879-8069  
FAX : 06-6879-8069  
E-mail : kawabata@hus.osaka-u.ac.jp



図3 OOSが生む共生

社会的諸課題が発展的に解消され、利他的かつレジリエントな共生社会が生みだされていく、その方法論でもあり、結果でもあるのがOOSです。これまでにパナソニックホームズ株式会社、東日本大震災の被災地岩手県九戸郡野田村、NTN株式会社などの10の企業、NPO法人、地方自治体などとOOS協定を結び、グローバルビレッジの街づくりの取り組み、被災地復興の取り組み、防災・見守りの取り組みなどをおこなってきました。

次の写真は、2018年12月、OOSにもとづき津雲台に建設中の「大阪大学グローバルビレッジ」でフィールドワークを実施した様子です。その後現地プロジェクト会議を行い、人間科学研究科からは、教員、院生、学生が出席し、パナソニックホームズ社やグローバルビレッジにテナントを出店予定の企業の方々とともに、空間の共有、時間の共有、機能の共有による暮らしの価値の創出について、議論を交わしました。

人間科学部／研究科は、2022年に創立50周年を迎えるまでになりました。しかしながら、まだまだ



図4 グローバルビレッジ建設現場でのフィールドワーク

「人間科学」という学問が、1つの専門領域として世間に知られているとはいえません。私たちは、「人間科学」を世間に強くアピールしていかなければなりません。人間そのものへの学術的理解の進展を目指すとともに、学術の世界の専門的知識を基盤として、地域、行政、NPO、企業などの国内外の多様な当事者（アクター）と協働して、大学内部の知である統合知を「共創知」へと変革し、社会の諸問題の解決を目指します。現実に存在する課題を見すえつつ、その改善や解決のためにさまざまな専門知から統合知を構築し、大学外の多様なアクターとの相互作用のなかで共創知は鍛えあげられます。その過程を「知のキュレーション」と呼び、この方法を教育、研究、社会貢献に活かしていきます。人類が直面している諸課題の解決方法を模索する「人間科学版知のキュレーター」の養成を目指す新たな人間科学のなかで、重要な仕組みの一つが大阪大学オムニサイトなのです。

